

米国 I S M製造業景気指数 (12年 1月)

発表日：2012年2月1日 (水)

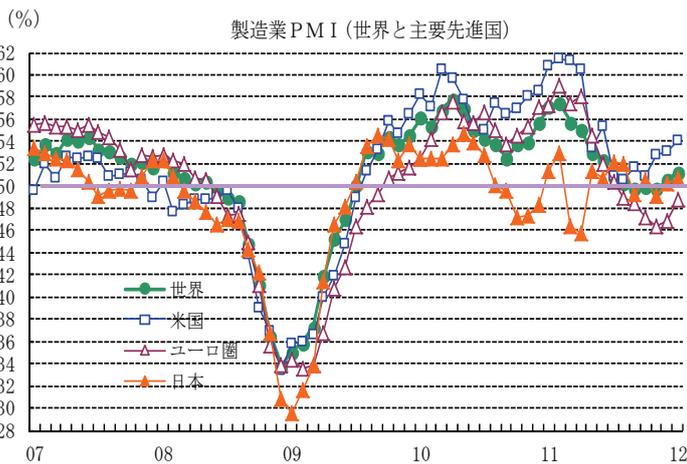
～世界的に製造業部門は拡大ペースを加速～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

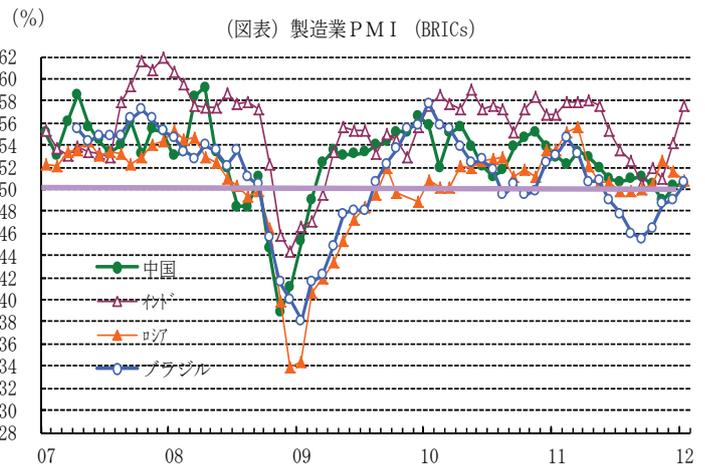
I S M製造業景気指数 は 54.1 と前月比 1.0% ポイント上昇

1月のISM製造業景気指数は、54.1と前月比1.0%ポイント上昇し11年6月以来の高水準となった(市場予想54.5)。底堅い米国内需要に加えて、在庫の復元や米国外需要の持ち直しを背景に改善し、拡大縮小の分岐点である50を30ヵ月連続で上回った。ISM製造業景気指数は新規受注が水準を切り上げたことで上昇し、製造業部門の加速を示している。しかし、新規受注・在庫比率が5ヵ月ぶりに低下、拡大した業種数は8と前月と変わらずとなっており、今後、同景気指数の上昇ペースが鈍化することを示唆している。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、生産(前月比▲0.6%ポイント)、雇用(前月比▲0.1%ポイント)が押し下げ寄与となったものの、在庫(前月比+0.8%ポイント)、新規受注(同+0.6ポイント)、入荷遅延(同+0.4%ポイント)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+1.0%ポイント上昇した。新規受注では、内外需ともに増加するなかで、特に外需が再加速した。実際、1月の世界製造業PMIは51.2と2ヵ月連続で前月比で拡大し、50を上回っており、世界の製造業部門の再加速を示唆している。先進国では、米国のほか、日本、英国などが50を上回った。新興国ではインド、中国、ブラジル、ロシアなどが50を上回り、特にインドは57.5と大幅に改善した。



(出所) ISM, Markit Economics



(出所) Markit Economics

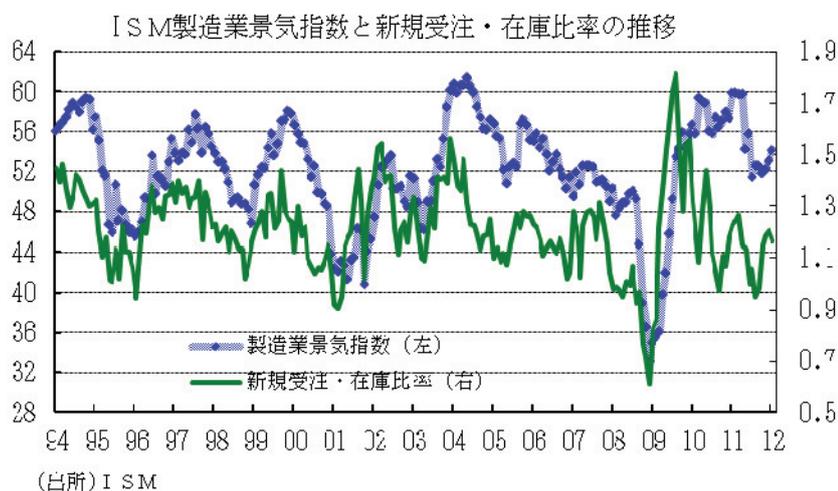
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

I S M (the Institute for Supply Management) の推移

総合		新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
11/06	55.8	53.6	55.9	61.0	53.5	55.2	49.0	68.0	53.5	51.0
11/07	51.4	50.8	52.5	55.1	48.0	50.6	45.0	59.0	54.0	53.5
11/08	52.5	51.8	51.5	53.6	54.5	51.2	46.0	55.5	50.5	55.5
11/09	52.5	51.1	52.5	55.2	52.0	51.6	41.5	56.0	53.5	54.5
11/10	51.8	53.4	52.7	54.0	46.5	52.2	47.5	41.0	50.0	49.5
11/11	52.2	55.0	55.7	52.4	46.5	51.3	45.0	45.0	52.0	49.0
11/12	53.1	54.8	58.9	54.8	45.5	51.5	48.0	47.5	53.0	54.0
12/01	54.1	57.6	55.7	54.3	49.5	53.6	52.5	55.5	55.0	52.5

I S M製造業景気指数は 改善ペース鈍化も

今後に関しては、企業が過剰な在庫を抱えていないことや米国内需要が拡大を続けていることなどによって、改善傾向は維持されよう。ただし、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が5か月ぶりに低下しており、I S M製造業景気指数の上昇ペースが鈍化すると予想される。さらに、欧州債務問題などによって世界経済が大幅に減速すれば、世界的な製造業部門の改善に歯止めがかかり、I S M指数も低下するだろう。



輸出の緩やかな拡大を 示唆

輸出受注D Iは、1月に55.0と拡大縮小の分岐点である50を上回っているうえ、前月比2.0%ポイント上昇した。世界的な製造業部門の改善によって、輸出の拡大ペースが前月比で緩やかに加速していることが示された。ただし、輸出D Iの水準は世界経済の減速の影響を受け切り下がっており、輸出が前年比で鈍化傾向を辿ることが示唆されている。

今後、新興国向け輸出が維持される一方で、内需の弱い先進国向け輸出が大幅に伸び悩むと見られ、米国輸出の拡大ペースは緩やかな拡大にとどまると予想される。

各国の米国向け輸出は 再び増加ペースを速める 可能性

輸入D Iは、1月に52.5と前月比1.5%ポイント低下したが、50を2ヶ月連続で上回っており輸入の増加を示唆している。加えて、新規受注D Iが57.6と50を上回っていることから、先進各国やB R I C Sなど新興国の米国向け輸出は再加速すると見込まれる。

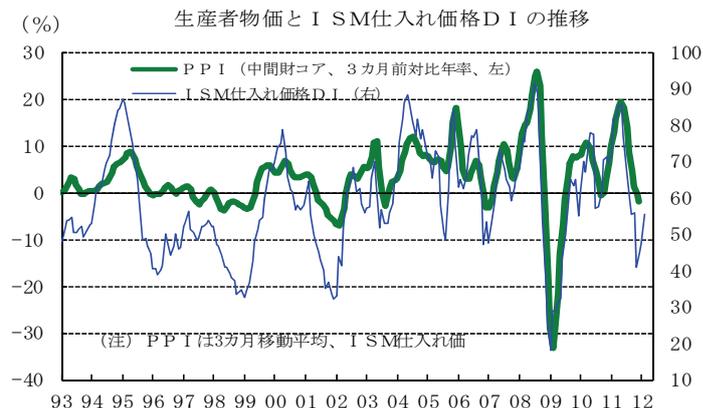
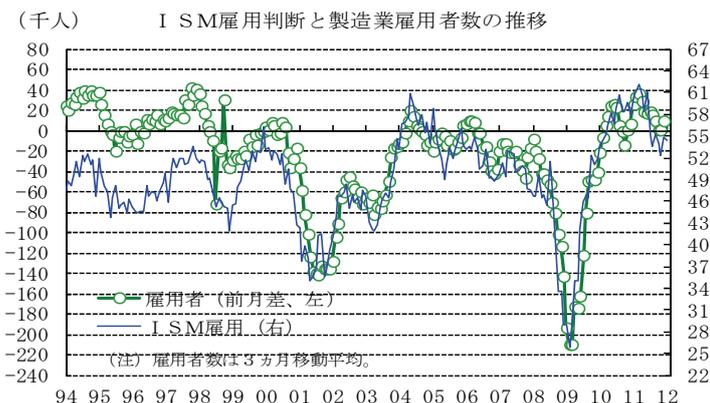
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

雇用DIは54.3と1月の製造業雇用の増加を示唆

雇用DIは、54.3と前月比0.5%ポイント低下したが50を上回っていることから、1月の製造業雇用者数は小幅増加すると見込まれる。もっとも、価格競争の激化によるコスト削減圧力の強まりを背景に、製造業部門での雇用の急速な回復は期待できない。

仕入価格DIが55.5と川中でのインフレ圧力は弱いまま

仕入価格DIは、前月比8.0%ポイント上昇したものの、55.5と低い水準にとどまっている。世界的な景気減速、エネルギー・商品価格の下落によって、川中でのインフレ圧力は弱いままである。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。